

令和3年1月29日

所 属	文化振興担当
所属長	松長 昌男
電 話	06-6489-6385

A-Lab Exhibition Vol.27「普通の日 YU SORA 個展」を開催します！

1 趣旨

尼崎市は、あまらぶアートラボ「A-Lab」（えーらぼ）で「普通の日 YU SORA 個展」を開催します。

本展は、韓国出身のアーティストである YU SORA（ユ・ソラ）による日常をテーマとした展覧会です。原寸大の家具や家電製品などを真っ白な布と黒い糸で包み込んだ作品は、一見するとクールで非日常的な空間が広がっているように見えます。しかし、その空間に踏み入ると温かさや優しさを感じることができます。それは、観た人それぞれの日常生活で個人の感情や記憶が持つ、それぞれの色、すなわち「普通の日」を入れる容れ物の役割を持っているからです。それぞれ個人が持つ、「普通の日」を感じてみてください。

また、本展では立体作品だけでなく、布を支持体にした平面作品、木彫作品、そして尼崎の風景のドローイングなどを展示します。

※新型コロナウイルス感染症の感染防止策として、別紙1のとおり対策を行い、展覧会を開催します。ご理解・ご協力の程よろしくお願いたします。

2 概要

会 期：令和3年2月23日(火)祝から令和3年3月31日(水)

会 場：あまらぶアートラボ「A-Lab」（尼崎市西長洲町2-33-1） 入場料：無料

時 間：(平日) 午前11時～午後7時 (土・日・祝) 午前10時～午後6時

※休館日：火曜日

出展者：YU SORA（ユ・ソラ）

問合せ：尼崎市文化振興担当（土日除く午前8時45分から午後5時30分）

電話 06-6489-6385 FAX 06-6489-6702

主 催：尼崎市

協 力：ベイ・コミュニケーションズ

3 関連イベント

無人ワークショップ「私たちの住んでいる家」

日常を見つめ直す本展の会場で、参加者が自らの日常生活の場所を振り返り、住んでい

る部屋の間取り図をそれぞれに描くワークショップを開催します。普段の生活の中で見えている部屋だからこそ、わからなくなってしまうこともあります。じっくり考えて描いたり、家族で話し合いながら描いたり、いつもの生活している場所の見方が変わるでしょう。そして、知らない誰かの部屋をのぞき、どんな人が想像したり、共感したり、似ている人を探したりしてみましょう。

当ワークショップは、展覧会期中、いつでも参加できます。

4 作家略歴

1987年生まれ。韓国、京畿道出身。弘益大学彫塑科を2011年卒業、東京藝術大学大学院彫刻家修士課程を2020年修了。白い布と黒い糸を使い、日常をテーマとした作品を作っている。家の中のものや姿を通じて人の存在や生きている時間を語る。2010年からソウルと東京を中心とし、様々な展覧会に参加。日本での主な展覧会は「黄金町バザール2013」、個展「引っ越し」(YCC Gallery、横浜、2017年)、Tokyo Midtown Awatd2018、ROPPONGI ART NIGHT2019など。

以 上

あまらぶアートルボ（A-Lab）における新型コロナウイルス感染症拡大防止策

【来場者へのお願い】

来場者へのお願いとして以下の内容を掲示します。

- ・咳エチケット、マスク着用、手洗い・手指の消毒をお願いします。
- ・咳・咽頭痛などの症状や37.5度以上の熱がある方、帰国後2週間以内の方の入場はご遠慮ください。
- ・エレベーターの使用は移動に制約のある方のみ使用していただくようお願いいたします。
- ・場内では間隔を広げてご鑑賞ください。
- ・鑑賞中に大きな声での会話はご遠慮ください。
- ・基本的に作品にはお手を触れないでください。直接手で触れることができる展示物は設置している手袋の着用をお願いします。
- ・資料、図書を閲覧する際は手袋の着用をお願いします。
- ・ご来場の際に、ご連絡先などをお伺いさせていただきます。
- ・サーモグラフィーを設置するとともに、来館者に対して検温を実施させていただく場合があります。また、一定値以上の発熱がある場合は入場をお断りする場合があります。
- ・スタッフはマスクを着用して対応させていただきます。
- ・基本的に荷物のお預かりができません。大きなお荷物はスタッフにご相談ください。

【接触・飛沫感染防止対策】

(入口)

- 1 入口に消毒液を設置します。

(受付)

- 2 受付で兵庫県新型コロナウイルス追跡システムに登録できるようにする他、来場者の連絡先を記載してもらおう用紙を設置し、感染が確認された際に連絡を取れるようにします。
- 3 場内では間隔を広げてご覧いただくようお声掛けするとともに、フロアマーカーを設置します。
- 4 配布物は手渡しで配布せず据置き方式とします。
- 5 受付に飛沫感染防止のためシールドを設置します。
- 6 サーモグラフィーを設置して来場者の体温を確認するとともに、必要に応じて来場者の検温するため、非接触型の温度計を設置します。

(ロビー等)

- 7 配布するチラシは見本を掲示し、希望者に個別にお渡しします。
- 8 連絡先の記載やアンケート記入に使用した鉛筆はお持ち帰りいただきます。
- 9 ポートフォリオ、図書コーナーの本の閲覧時に使用する使い捨ての手袋を設置します。

(展示室)

- 10 直接手で触れることができる展示物を鑑賞するための使い捨ての手袋を設置します。
- 11 展示室内は常時換気していますが、可能な限り展示室のドアや窓を開けて換気をします。展示上、ドア、窓を開ける事ができない部屋は30分に一回程度、展示室の換気を行います。

(その他)

- 12 手すり、ドアノブ、エレベーターのボタン、テーブルなどを適宜殺菌消毒します。
- 13 トイレの洗面に使い捨てペーパーを設置します。

【スタッフの健康管理】

- 1 毎日スタッフの検温を行います。
- 2 スタッフはマスクを着用し、手洗い・手指の消毒を徹底して実施します。
- 3 来場者への資料の配布、荷物の対応等の場合、手袋を着用します。



普通の日

A n O r d i n a r y D a y

YU SORA

2021年2月23日～3月31日

あまらぶアトラボ A-Lab Exhibition Vol.27

A-Lab
あまらぶアトラボ

普通の日

An Ordinary Day

YU SORA 個展

2021年2月23日～3月31日

あまらぶアートラボ **A-Lab** Exhibition Vol.27

「普通の日」は続いている

第27回目となるA-Labの展覧会は韓国出身のアーティスト YU SORA (ユ・ソラ) の「普通の日」。彼女が近年取り組んできている作品は、原寸大の家具や電化製品などを真っ白な布と黒い糸で包み込む世界である。それらは、一見するとクールで非日常的な空間が広がっているように見える。

しかし、その空間に足を踏み入ると、なにかしら、人の息遣いと温かさ、優しさのようなものを感じる。それは、モチーフが、普段私達が目にしている身の回りにある見慣れたものということだからかもしれない。柔らかい布で覆われているということもあるかもしれない。布を縫うという手仕事、手触りを感じるからかもしれない。でも、根底に流れているのは、彼女が紡いでいる、生きている「普通の日」があるからなのではないかと思う。

そこには確かな日常があり、「生」がある。真っ白な布に黒い糸。色が着いていないそれらは、観た人が色を着けた「普通の日」を入れる容れ物の役割を持っている。今回、A-Labでは立体作品だけでなく、布を支持体にした平面作品、木彫作品、そして尼崎の風景のドローイングなどが展開される。そこにはそれぞれの「普通の日」が流れている。

コロナ禍以降、新しい日常という言葉が聞かれるようになった。日常に新しいや古いという概念がふさわしいかわからない。しかし、スマートフォンでコミュニケーションを取り合うことは、わずか十数年前では日常ではなかったように、私達の日常が変わり続けてきたことは間違いない。

日常を作っているのは「普通の日」の積み重ね。日常が変わっても、そこに人は生きている。続いていく「普通の日」がそこにある。彼女の作品は縫い終わりの処理をしていない。そう、何も終わってない。「普通の日」はそれぞれの時間の中でずっと続いているというメッセージのようにも感じる。

A-Labは、1階が保育所であるように、人々が日常を過ごしているまちの中に埋没しているアートスペースである。生活感を感じる普通の場所で YU SORA が作り出す「普通の日」を感じて欲しい。

유소라 YU SORA

1987年生まれ。韓国、京畿道出身。弘益大学彫塑科を2011年卒業、東京藝術大学大学院 彫刻科 修士課程を2020年修了。白い布と黒い糸を使い、日常をテーマとした作品を作っている。家の中のものや姿を通して人の存在や生きている時間を語る。2010年からソウルと東京を中心とし、様々な展覧会に参加。日本での主な展覧会は「黄金町バザール2013」、個展「引越し」(YCC Gallery、横浜、2017年)、Tokyo Midtown Award 2018、ROPPONGI ART NIGHT 2019 など。



「帰るところ」サイズ可変インスタレーション、布・糸・紙、2020
(Photo by Hajime Kato)



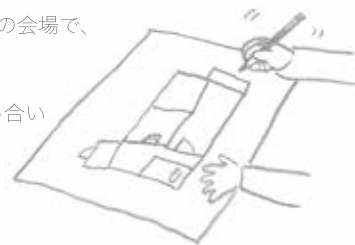
「帰るところ」檜, 35x60x23cm, 2019
(Photo by Hidehiko Omata)

無人ワークショップ「私たちの住んでいる家」

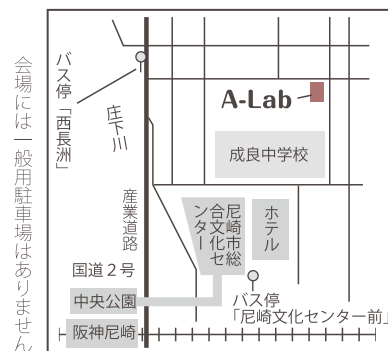
2019年六本木アートナイトで行われたワークショップの2021尼崎バージョン! 日常を見つめ直す展覧会「普通の日」の会場、参加者が自らの日常生活の場所を振り返り、住んでいる部屋の間取り図をそれぞれに描きます。

広さを間違えたり、描き忘れるスペースがあるかもしれません。

普段の生活の中で見ているからこそ、分からなくなってしまうこともあります。じっくり考えて描いたり、家族で話し合いながら描いたり、いつもの生活している場所の見方が変わるでしょう。そして、知らない誰かの部屋を覗き、どんな人が想像したり、共感したり、似ている人を探したりしてみましょう。



*新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、無人で行われます。ご自由にご参加下さい。



入場料無料 | 月・水～金 午前11時～午後7時 | 土・日・祝日 午前10時～午後6時 |

A-Labでは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策に取り組んでいます。ご来場の際して、マスクの着用や手指の消毒など、皆様のご協力をお願いいたします。取り組んでいる拡大防止策についてはA-Labのホームページなどでご覧いただけます。

A-Lab
あまらぶアートラボ

お問い合わせ

<http://www.ama-a-lab.com> 兵庫県尼崎市西長洲町2-33-1

A-Lab email: amalove.a.lab@gmail.com Tel・Fax: 06-7163-7108

尼崎市役所文化振興担当 Tel: 06-6489-6385 Fax: 06-6489-6702

主催 尼崎市

協力 Baycom